



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月7日

上場会社名 株式会社ランシステム 上場取引所 東
コード番号 3326 URL <https://www.runsystem.co.jp/>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 日高 大輔
問合せ先責任者（役職名） 常務取締役（氏名） 面高 英雄 TEL 045-594-6411
半期報告書提出予定日 2024年11月8日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	3,323	△27.9	64	△19.5	60	△2.9	22	—
2024年3月期中間期	4,608	92.0	80	—	62	—	△34	—

（注）包括利益 2025年3月期中間期 22百万円（—%） 2024年3月期中間期 △34百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	5.40	—
2024年3月期中間期	△8.06	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期中間期	3,595	199	5.5	46.92
2024年3月期	3,944	176	4.5	41.51

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 199百万円 2024年3月期 176百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	
通期	5,600	△24.0	120	△5.9	100	3.5	60	△39.8	14.12

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	4,380,900株	2024年3月期	4,380,900株
2025年3月期中間期	130,490株	2024年3月期	130,490株
2025年3月期中間期	4,250,410株	2024年3月期中間期	4,250,410株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
(中間連結損益計算書)	6
(中間連結会計期間)	6
(中間連結包括利益計算書)	7
(中間連結会計期間)	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(セグメント情報等)	10
3. その他	12
(継続企業の前提に関する重要事象等)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の水面下での流行や材料価格の高騰等、依然として先行き不透明な状況が続いておりますが、個人の消費回復やインバウンド需要の高まりによって経済環境は緩やかな回復基調が続いております。サービス業・アミューズメント業界においても、物価高や光熱費等のコスト上昇の影響はあるものの、人流回復に伴う緩やかな回復基調が継続しております。

このような経営環境のもと、当社グループは「基本の徹底」「コスト最適化」「チームの再構築・人財強化」に注力し、既存の主力事業であるエンターテインメント事業ではサービス業としての基本である「清掃・接客」を軸に、安心安全健全な運営を継続していくことに加え、顧客満足度向上の為に店舗改装、お客様目線での店舗別サービス提供を現場スタッフ主導ですすめているほか、システム事業におけるチームの再構築、人財強化を行い、新規取引先を拡大していくための新規商材開発・営業強化等に努めて参りました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高3,323百万円(前年同期比27.9%減)、営業利益64百万円(前年同期比19.5%減)、経常利益60百万円(前年同期比2.9%減)、親会社株主に帰属する中間純利益22百万円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失34百万円)となりました。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

なお、2.(4)中間連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)に記載のとおり、前連結会計年度において児童発達支援事業を行う会社の全株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しております。これに伴い、当中間連結会計期間より児童発達支援事業を報告セグメントから除外しております。

<エンターテインメント事業>

当事業につきましては、当社及び当社子会社の株式会社ランセカンドによる複合カフェ「スペースクリエイト自遊空間」チェーン直営店舗の運営をメインとし、安心安全健全な運営を行っております。店内設備においては、お客様のニーズの高い完全個室への改装等を実施しております。また、不採算店舗の閉店の影響で、売上高は減少しておりますが、営業利益は増加しております。その他、自遊空間のフランチャイズ店舗のサポート業務や自遊空間店舗で利用している商材の外部への販売、店舗を利用した広告掲出、社員研修・スタッフ研修の外部への販売、バーチャル関連の新規事業開発を進めております。

以上の結果、当中間連結会計期間末時点では、グループ店舗数83店舗(直営店舗33、FC加盟店舗50)となり、当セグメント全体の売上高は1,672百万円(前年同期比7.4%減)、セグメント利益は94百万円(前年同期比234.7%増)となりました。

<システム事業>

当事業につきましては、注目度の高いセルフ化システムやテレワーク環境を支援するシステムなどの各種システムの販売及び保守、管理業務を行っているほか、新しい商材の開発や新規顧客開拓も進めております。また、当社の親会社であるAOKIホールディングスのグループ会社が展開する店舗へのセルフ化システム、PC関連部材等の導入を進めております。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は1,608百万円(前年同期比35.2%減)、セグメント利益は83百万円(前年同期比26.6%減)となりました。

<不動産事業>

当事業につきましては、不動産賃貸物件の適切な管理に注力し、おおむね計画通りの売上推移となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は42百万円(前年同期比7.6%増)、セグメント利益は27百万円(前年同期比4.3%減)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は1,445百万円となり、前連結会計年度末に比べ329百万円減少しました。これは主に商品及び製品が21百万円増加した一方、現金及び預金が269百万円、売掛金が76百万円減少したことなどによるものであります。

固定資産は2,150百万円となり、前連結会計年度末に比べ18百万円減少しました。これは主に建物及び構築物が91百万円、リース資産が22百万円増加した一方、敷金が106百万円、建設仮勘定が30百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、総資産は3,595百万円となり、前連結会計年度末に比べ348百万円減少しました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は1,726百万円となり、前連結会計年度末に比べ571百万円増加しました。これは主に資産除去債務が181百万円、買掛金が54百万円減少した一方、1年内返済予定の長期借入金が941百万円、賞与引当金が21百万円増加したことなどによるものであります。

固定負債は1,670百万円となり、前連結会計年度末に比べ942百万円減少しました。これは主に、長期借入金が963百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は3,396百万円となり、前連結会計年度末に比べ371百万円減少しました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は199百万円となり、前連結会計年度末に比べ22百万円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益22百万円の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、5.5%(前連結会計年度末は4.5%)となりました。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、882百万円となり、前連結会計年度末と比較して269百万円減少しました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は116百万円(前年同期は137百万円の収入)となりました。これは主に、仕入債務の減少額54百万円等により資金が減少した一方、減価償却費93百万円、売上債権の減少額76百万円等により資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は319百万円(前年同期は69百万円の支出)となりました。これは主に、敷金の回収による収入33百万円等により資金が増加した一方、資産除去債務の履行による支出210百万円、有形固定資産の取得による支出132百万円等により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は65百万円(前年同期は28百万円の支出)となりました。これは主に、ファイナンスリース債務の返済による支出24百万円、長期借入金の返済による支出21百万円等により資金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期中間連結会計期間の業績は、エンターテインメント事業において、業績が想定よりも上回ったことに加え、中間期までに予定していた設備投資の一部が第3四半期にずれ込んだ影響で、予想を上回る結果となりました。

通期の連結業績予想につきましても、エンターテインメント事業で予算計画にない店舗閉店が発生したこと等の影響で当初の計画を若干下回る見込みであるものの、全体としては予想を上回る見込みであるため、上方修正しております。

詳細につきましては、本日(2024年11月7日)公表いたしました「2025年3月期中間業績予想と実績値との差異および2025年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,151,136	882,073
売掛金	387,362	310,755
商品及び製品	93,765	115,721
原材料及び貯蔵品	20,542	15,758
その他	123,164	123,885
貸倒引当金	△917	△2,946
流動資産合計	1,775,054	1,445,247
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	832,393	923,460
車両運搬具及び工具器具備品(純額)	65,681	66,931
リース資産(純額)	164,297	186,682
土地	364,014	364,014
建設仮勘定	30,050	—
有形固定資産合計	1,456,437	1,541,089
無形固定資産		
ソフトウェア	37,381	30,660
その他	—	10,813
無形固定資産合計	37,381	41,473
投資その他の資産		
敷金	606,769	500,668
その他	81,234	79,990
貸倒引当金	△12,615	△12,644
投資その他の資産合計	675,388	568,014
固定資産合計	2,169,208	2,150,577
資産合計	3,944,262	3,595,824
負債の部		
流動負債		
買掛金	207,600	153,153
1年内返済予定の長期借入金	347,741	1,289,302
リース債務	42,631	52,644
未払法人税等	8,458	3,518
賞与引当金	—	21,198
資産除去債務	227,186	45,450
その他	321,433	160,916
流動負債合計	1,155,051	1,726,182
固定負債		
長期借入金	2,062,107	1,098,842
リース債務	146,150	161,488
資産除去債務	122,933	119,610
その他	281,565	290,290
固定負債合計	2,612,755	1,670,231
負債合計	3,767,807	3,396,413

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	236,430	236,430
利益剰余金	△67,348	△44,391
自己株式	△92,627	△92,627
株主資本合計	176,454	199,411
純資産合計	176,454	199,411
負債純資産合計	3,944,262	3,595,824

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	4,608,617	3,323,448
売上原価	4,111,175	2,813,108
売上総利益	497,442	510,339
販売費及び一般管理費	417,316	445,846
営業利益	80,125	64,493
営業外収益		
受取利息	120	134
販売手数料収入	1,960	1,600
物品売却益	1,056	5,307
助成金収入	960	—
利子補給金	1,173	—
業務委託収入	—	2,456
受取保険金	1,051	5,640
その他	484	887
営業外収益合計	6,806	16,026
営業外費用		
支払利息	18,030	19,839
控除対象外消費税等	6,189	—
その他	243	27
営業外費用合計	24,462	19,867
経常利益	62,470	60,652
特別利益		
固定資産売却益	539	357
特別利益合計	539	357
特別損失		
固定資産除却損	1,698	570
減損損失	22,299	6,168
店舗閉鎖損失	26,586	28,308
火災損失	34,243	—
特別損失合計	84,828	35,047
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△21,817	25,962
法人税、住民税及び事業税	13,451	3,619
法人税等調整額	△1,005	△613
法人税等合計	12,446	3,005
中間純利益又は中間純損失(△)	△34,264	22,956
非支配株主に帰属する中間純利益	—	—
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△34,264	22,956

(中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益又は中間純損失(△)	△34,264	22,956
中間包括利益	△34,264	22,956
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△34,264	22,956
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△21,817	25,962
減価償却費	87,097	93,515
減損損失	22,299	6,168
助成金収入	△960	—
固定資産売却損益(△は益)	△539	△357
固定資産除却損	1,698	570
賞与引当金の増減額(△は減少)	—	21,198
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△4,238	2,057
受取利息及び受取配当金	△120	△134
支払利息	18,030	19,839
店舗閉鎖損失	26,586	28,308
火災損失	34,243	—
売上債権の増減額(△は増加)	84,664	76,607
棚卸資産の増減額(△は増加)	△14,150	△17,170
仕入債務の増減額(△は減少)	△52,200	△54,447
その他	△9,552	△58,045
小計	171,040	144,071
利息及び配当金の受取額	36	109
利息の支払額	△17,726	△18,887
法人税等の支払額	△16,676	△8,559
助成金の受取額	960	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	137,634	116,733
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△53,829	△132,934
有形固定資産の売却による収入	540	357
無形固定資産の取得による支出	△21,520	△10,813
資産除去債務の履行による支出	△15,380	△210,157
投資有価証券の取得による支出	—	△1,000
敷金の回収による収入	14,348	33,346
長期預り金の受入による収入	4,800	—
その他	1,350	1,284
投資活動によるキャッシュ・フロー	△69,691	△319,916
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△9,288	△21,704
ファイナンスリース債務の返済による支出	△14,011	△24,423
割賦債務の返済による支出	△5,644	△19,752
財務活動によるキャッシュ・フロー	△28,943	△65,879
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	38,999	△269,062
現金及び現金同等物の期首残高	771,689	1,151,136
現金及び現金同等物の中間期末残高	810,688	882,073

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	エンターテイン メント事業	システム 事業	不動産 事業	児童発達 支援事業	計		
売上高							
施設利用収入	1,683,835	—	—	278,519	1,962,354	—	1,962,354
外販収入	120,844	2,484,571	—	—	2,605,416	—	2,605,416
賃料収入	1,482	—	—	—	1,482	—	1,482
顧客との契約 から生じる収益	1,806,163	2,484,571	—	278,519	4,569,253	—	4,569,253
その他の収益	—	—	39,363	—	39,363	—	39,363
外部顧客への 売上高	1,806,163	2,484,571	39,363	278,519	4,608,617	—	4,608,617
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	565	1,749	—	—	2,315	△2,315	—
計	1,806,728	2,486,320	39,363	278,519	4,610,932	△2,315	4,608,617
セグメント利益	28,370	114,071	28,780	33,747	204,970	△124,844	80,125

(注) 1. セグメント利益の調整額△124,844千円は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「エンターテインメント事業」セグメントにおいて、主として継続的に営業損失を計上し収益性が低下している店舗、及び、閉店が決まった店舗について減損損失を認識しております。これにより、当中間連結会計期間において減損損失22,299千円を計上しております。

Ⅱ 当中間連結会計期間(自2024年4月1日 至2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	中間連結 損益計算書 計上額 (注2)
	エンターテイン メント事業	システム 事業	不動産 事業	計		
売上高						
施設利用収入	1,549,254	—	—	1,549,254	—	1,549,254
外販収入	122,852	1,608,991	—	1,731,843	—	1,731,843
賃料収入	—	—	—	—	—	—
顧客との契約 から生じる収益	1,672,107	1,608,991	—	3,281,098	—	3,281,098
その他の収益	—	—	42,350	42,350	—	42,350
外部顧客への 売上高	1,672,107	1,608,991	42,350	3,323,448	—	3,323,448
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	1,772	—	1,772	△1,772	—
計	1,672,107	1,610,763	42,350	3,325,220	△1,772	3,323,448
セグメント利益	94,964	83,779	27,547	206,290	△141,797	64,493

(注) 1. セグメント利益の調整額△141,797千円は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

前連結会計年度において児童発達支援事業を行う会社の全株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しております。これに伴い、当中間連結会計期間より児童発達支援事業を報告セグメントから除外しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「エンターテインメント事業」セグメントにおいて、閉店が決まった店舗について減損損失を認識しております。これにより、当中間連結会計期間において減損損失6,168千円を計上しております。

3. その他

(継続企業の前提に関する重要事象等)

当社グループは、主力事業であるエンターテインメント事業における効率的な運営体制の強化と収益力の向上を図るとともに、システム事業の販路拡大や新規事業の企画・開発等に積極的に取り組んで参りました。

新型コロナウイルス感染症による影響を受け、来店客数が減少したことを主な要因として当社業績は売上高、営業利益ともに大きく減少し、前連結会計年度においては、営業利益127百万円、経常利益96百万円、親会社株主に帰属する当期純利益99百万円を計上し黒字化しておりますが、2023年3月期まで4期連続で営業損失、親会社株主に帰属する当期純損失及びマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しておりました。当中間連結会計期間においては、営業利益64百万円、経常利益60百万円、親会社株主に帰属する中間純利益22百万円を計上しておりますが、純資産は199百万円、自己資本比率は5.5%と厳しい状況が続いており、安定した財務基盤を構築するにはもうしばらく時間を要することが見込まれます。

以上により、当社グループの事業運営は継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を実行して参ります。

① 資金の確保

前連結会計年度における連結子会社の株式譲渡、親会社株主に帰属する当期純利益の計上等により、当面の運転資金は確保されております。主要取引金融機関の交渉等、資金の確保を継続的に行って参ります。

② 収益増

エンターテインメント事業においては、修繕や改装等の必要な投資は積極的に行い、集客力を強化することで収益力の向上を図るとともに、AOKIホールディングスのグループ会社である株式会社快活フロンティアが運営する店舗とのノウハウの共有、店舗備品の共同仕入れ等により運営コストの見直しを引き続き図って参ります。

システム事業においては、AOKIホールディングスのグループ会社の運営する店舗へのPOSや無人入会機の販売、客席PCの入替、QR鍵の導入等を進めております。今後更なる収益を目指して、QR鍵や省人化システム各種を、店舗運営の大きな課題となる人材不足に対応するシステムとして、同業他社だけでなく、店舗運営をする様々な業態へ拡販して参ります。別途、バーチャル事業において様々なチャレンジを行い、VTuber関連ビジネスの開発及び早期の収益化に注力して参ります。

③ コスト削減

直営店舗の家賃減額、変動費の見直し等を継続実施し、全社的にかかるコストの把握、販管費の削減を行って参ります。また、運営体制の効率化によるコスト圧縮を引き続き行います。

これらの施策の実施により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在するものの、重要な不確実性は認められないと判断しております。